

こころ育てる絵本との出会い

マクちゃん通信

2012 4 - 5 vol. 13

絵本原画展

平田昌広 & 景

特集 大震災に思う



平田昌広 & 景

子どもから伝わってくることをそのままに…

新鋭の夫婦作家が描く家族愛

元気いっぱい、溢れる笑顔

最後のオチまでお見逃しなく！



写真提供：絵本こそだて日記「ミート」

平田昌広&景(ひらたまさひろ&けい)プロフィール

神奈川県三浦市在住のご夫婦の絵本作家。昌広さん(1969年生まれ)が文を、景さん(1970年生まれ)が絵を担当。絵本作品に『ひものでございっ!』(文化出版局)、『のりおのふしぎなぼうえんきょう』(講談社)、『ねえ、ほんとにたすけてくれる?』(アリス館)、『それいけ!ぼくのなまえ』(ポプラ社)、『生活科えほんシリーズ』(大日本図書)など多数。それぞれ単独で、他の作家との作品づくりにも力をいれている。また、『夫婦(メオト)よみ』といって、全国各地で絵本ライブを行うなど、イベントにも積極的に出演している。

<http://www.office-make.com>

絵本原画展開催

平成24年3月31日(土)~平成24年5月30日(水)



『おかん』(大日本図書)



『かいてんずし だいきくせん』(講談社)

原画展示絵本

春のギャラリ―では、ほのぼのの家族を描いた「かいてんずしだいさくせん」「おかん」をご紹介します。

平田昌広先生と景先生にインタビュー



絵本作家になられたきっかけは？

昌広 おたがいに目標がぼんやりしていたときに「ふたりなら、なんとかなるんじゃない？」みたいないきおいです。

景 絵本作家になるには、ガッツで売り込みが重要です。

昌広 でも、ガッツでデビューすると、あとでたいへんですね。技術面で。

画材は何を使っていらつしゃいますか？

景 いまは、水彩絵の具にポリカラーという色鉛筆を使っています。紙は最近、長谷川義史さんに教えてもらって、いろいろ試しています。

今回、絵本原画展を行う絵本の制作秘話や思い出を教えてください。

昌広 どの作品も終わってしまうと、あまり覚えていないのですが「おかん」は、よく覚えています。ちょうど『おとんとつくっているときに』「おとんといいば、おかんでしょう」という、ノリといきおいで生まれました。

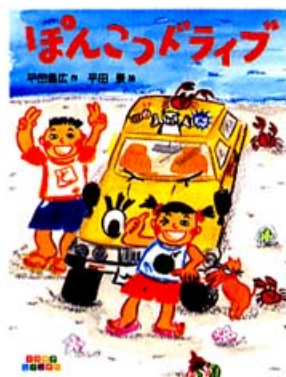
景 「かいてんずしだいさくせん」は「おいしそうなおすし」を描くのが目標で、特に表紙はその思いが強かったです。

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象深い絵本は？

昌広 どれが一番とはいえませんが、ふたりの絵本は会話形式が多いので、そのきっかけの「ぼんこつドライブ」ですね。

景 単行本になるまえに、月刊誌に掲載されました。

昌広 男の子とお父さんのおはなしだったんだけど、単行本になったら女の子とお父さんになりました。



『ぼんこつドライブ』(小学館2009年)

ご夫婦での作品作りのポイントは？

昌広 とにかく、たくさん話すことです。景さんは作品のことを話すのが、あまり好きではないのですが…。

景 はい。がんばって話しています。

夫婦よみで全国を回っておられますが、その魅力についてお聞かせください。

昌広 会話形式のおはなしをふたりのかけあいで読むのが夫婦(メオト)よみですが、魅力は読み方ではなく、子どもたちをまえにしたライブ感です。すべての反応は

作品づくりにつながると思っています。

絵本を通じてお伝えになりたいことは？

昌広 伝えることよりも、子どもから伝わってくるもののほうが多いです。それを作品にして子どもに返したいです。

今後どのような絵本を描いていけますか？

昌広 ふつうの生活のなかで、ふつうに感じることをおはなしにしたいです。

景 描けるだけで満足です。

ご趣味についてお聞かせください。

昌広 釣りです。魚に限らずイカもタコも！

景 趣味を作らないのが趣味です。

お好きな言葉を教えてください。

昌広 昨年の震災以降、サインに「うたがうまえに、しんじてみるよ」と添え書きしています。

ファンの方へメッセージをお願いします。

昌広 みんなのまえで読みたいですよ！

景 緊張するけど、絵本ライブはすごくためになります。

昌広 だから、子どもたちにメッセージ。お母さんやお父さん、先生に「あのふたりをよんで」って、お願いしてね！

平田昌広先生、景先生ありがとうございました！



『おかん』(大日本図書)

平田昌広先生&景先生 サイン入りの絵本を 3名様にプレゼント

応募方法 氏名、年齢、住所、電話番号をご明記のうえ、ハガキでご応募ください。
〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館
あて先 サイン本プレゼント係
締め切り 平成24年5月10日 消印有効

*発表は発送をもって代えさせていただきます。

5/3 (祝・木) ①11:00~12:00
②14:00~15:00

平田昌広&景 絵本ライブ&サイン会

お二人でつくった絵本をお二人が
かけあいで読む「夫婦(メオト)よみ」を
お楽しみに！



小川 裕之
射水市大島絵本館長

特集 / 大震災に思う

『絆』を大切に

昨年は東日本大震災をはじめとする自然災害に明け暮れて日本全体が失意と悲しみに包まれ、心の重い一年でした。

今年こそ平穏で皆が元気で暮らせるようにと祈っております。そして早く閉塞感を打破して家族の絆を大切に作る新しい生き方ができれば良いと感じます。

この大震災で自然の力の大きさ、生命の尊さ、人と人との絆、故郷の大切さなどあらためて知らされました。私たちはただ悲嘆にくれて沈み込んでいるわけにいきません。新たに希望を見出すように、私たち一人一人が自分の足で踏み出してこの難局に当たるべきだと思います。

社会全体が豊かになり過ぎ、世の中が荒れて人間関係が希薄になっていました。地域や家族の優しさや思いやりが取り戻され、人々が支え合い助け合うこと、家族で集まる時間を大切にすることなど、生き方について見直され、心の絆がより強くなったと感じます。

天皇陛下の昨年のお誕生日の感想全文、そして新年のご挨拶、両陛下のお歌が各紙に掲載されました。その内容はいづれも被災地の復興と国民の幸福を願われています。また被災地を訪ねられて被災者の前に膝をついて優しく語りかけておられる姿がとても印象的でした。このように国民にいつも心を寄せておられます。

私たちも何か役に立ちたい。できることを考え、以下の支援活動を行いました。

- ・ 義援金募集
- ・ 震災二日後に館内に義援金箱を設置、職員をはじめ来館者の方々から多額の浄財があり、日本赤十字社を通じ寄付。
- ・ 絵本マーケットの収益金寄付
- ・ 絵本まつりで来館者の方々に購入いただいた絵本の売上金の一部を日本赤十字社を通じ寄付。
- ・ 絵本の寄贈

一冊の絵本を手にするることによって子どもたちの心が癒され、親子の気持ちに自然に寄り添い、親子の絆に役立てればと450冊届けた。

・ 絵本の読み聞かせ
今年度事業として6月に実施予定。職員を被災地に派遣し、現地の幼児、児童を対象に本を読み聞かせる。子どもたちの心の中にある感情や心情を豊かにし、自分が忘れてしまったような時間を過ごしてもらおうことをねらいとする。

2014年には開館20周年の節目を迎えます。これまで以上に絵本の良さを発見するソフト事業の充実を進めると同時に、それから生まれる無限の可能性を広げるために、この館を様々な団体の活動の場として提供してまいります。

私のおすすめ絵本

『おこだでませんように』



くすのきしげのり/作
石井聖岳/絵 小学館
ほめられると嬉しい。
それが生きる自信へとつながる。

『いいからいいから』



長谷川義史/作
絵本館
孫といっしょに大笑いできる
ユーモア絵本。

『しげちゃん』



作/室井 淑
絵/長谷川義史
金の星社
名前にこめられた親の思いを
知れば心が輝く。



『くものうえから』
かずおきょうこ/作
射水市大島絵本館
命とはどこから来るのだろう。
神秘的な母子の絆を描く。



『てぶくろ』
ウクライナ民話
エウゲーニー・M・ラチョフ/え うちだりさこ/やく
福音館書店
世を超えて語り伝えたい世界の民話。



『100万回生きたねこ』
佐野洋子/作・絵
講談社
自分より大切な存在に出会えた猫は
初めて生きたいと思った。感動的名作。



『いのちのまつり』
ガブリエル・バンサン/作
草場一善/作 平安産資尚/絵
サンマーク出版
命のつながりを理解できる絵本。